

装丁家に訊く 教科書のデザイン

竹内雄二

竹内 雄二 Takeuchi Yuji

1966年、愛知県生まれ。書籍の装丁、および本文頁設計のデザイナーとして、特にビジネス書を中心に活躍する。改訂版教科書ではAdvanced, Standard, Select, Essenceシリーズの装丁を手掛ける。



竹内さんが装丁を手掛けた書籍（一部）

デザインは集合知で
つくっていく方が絶対にいい。



普段はどういった本の装丁をされていますか？

私はこれまで、ビジネス書やビジネススクールのテキストの装丁を数多く手掛けてきました。デザイン的には“信頼”と“品格”が求められる分野です。今回は、そんな私を教科書に起用したら面白いんじゃないか、という意図を感じました。教科書も“信頼”と“品格”が求められるという点は、これまでの仕事と通底していますね。

今回の教科書の装丁は、どのような方向性でデザインされましたか？

本をデザインするときは、やはり読者の立場に立って考えます。教科書ですから高校生が使うわけですが、高校生の感性は大人と変わりません。そのため、大人の鑑賞にも耐えるような“シンプルで格好いい、けど遊びも少し感じさせる”デザインを目指しました。これは、編集部の要望とも一致していました。

Advanced Standard Select Essence

書体から各シリーズの性格が感じられる。

そうすると、従来の“数学の教科書っぽさ”を抑えたデザインになりますが、やっぱり数学の教科書だと感じられるバランスも必要です。

一般書にはビジネス教養というジャンルがありますが、例えば日本庭園をテーマにしたビジネス教養の本をデザインするとき、装丁を庭園っぽくしすぎると「園芸」の棚に置かれてしまいます。どんなテーマであっても、ビジネス書の様式を外してはいけないんです。それと同じですね。

デザインをされるうえで、特に難しかった点は何ですか？

今回、『Advanced』、『Standard』、『Select』、『Essence』という難度別の4つのシリーズの装丁をデザインしました。そこで心掛けたのは、シリーズの間にデザイン性の差をつけないようにすることでした。内容の難度が下がると、伴って幼い印象にされてしまうことが往々にしてあるのですが、数学の得手不得手と精神年齢は無関係のはずです。

音楽においても、ブルース、ロック、フュージョン、ジャズの順に、使われる音楽理論は複雑化していきます。しかしながら、いずれのジャンルも依然として素晴らしさを持ち合わせています。格好よさにヒエラルキーはありませんね。

装丁においても、4つのシリーズの

アイデンティティを明確にしながら、それぞれをクールな存在とすることを目指しました。それが実現できたと自信を持って言えます。

今回の装丁における“こだわり”について教えてください。

今回は、シリーズタイトルのアルファベットをデザインの主役にしています。そのタイポグラフィは2000以上の候補から選りすぐりました。結果的に採用されたのは、どれも教科書にふさわしいオーソドックスな書体でした。

それらの書体をベースに、いずれもわずかながら私が手を加えることで、今の形になっています。そこにデザイナーの個性が表れます。本来、書体は計算され尽くしてつくられているものですので、ちょっと変えるぐらいが、品格もあって飽きずに長持ちします。

各シリーズの4つのタイトルデザインは、それぞれ性格が表れて特徴的で、とても愛着を感じています。

色も重要です。一般書は、書店で平積みされたときに目立つよう、“色のかたまり”として存在感を出します。色で本を覚えてもらうわけです。同じように、教科書も印象的な色にこだわりました。

そのために、身の回りの“いい色”をいつも集めています。これまでも実際に、街中で見かけたヘアワック

スの容器の色やヘッドフォンの色が、表紙のメインカラーになったこともあります。

今回は、好評だった前々版の教科書を継承する意図で、『Standard』に鉄紺色を使用したいという編集部の要望がありました。そのため、鉄紺色を軸にして他のシリーズの色も決めていきました。4シリーズ全体で、明るさと鮮やかさがの高低が、内容の難度の高低と反比例するように設計しています。

よいデザインを生み出す秘訣はなんですか？

「デザイナーはコントロールされたくない」と思われがちですが、デザイナーひとりで考えることには限界があります。例えば今回も、生徒や先生の使い勝手を考えて背表紙を工夫するといった発想は、私からは出てきません。編集部と密にブラッシュアップを重ねた結果です。

なので、デザインは集合知でつくっていく方が絶対にいい。自分がよいと思ったものから、さらによくなる最後のうひと搾りがあるんです。

竹内さんが装丁を手掛けた
改訂教科書は次のページ！



好評だった平成29年度版の『Standard』



モニター上と実際の印刷では色が異なるので、都度確認しながら色の調整を慎重に進める。